セイタカアワダチソウの新潟県における分布・繁茂

—秋景色一変波打つ黄色　セイタカアワダチソウ・・・・・新潟日報（1999・10・21）—

石沢　進

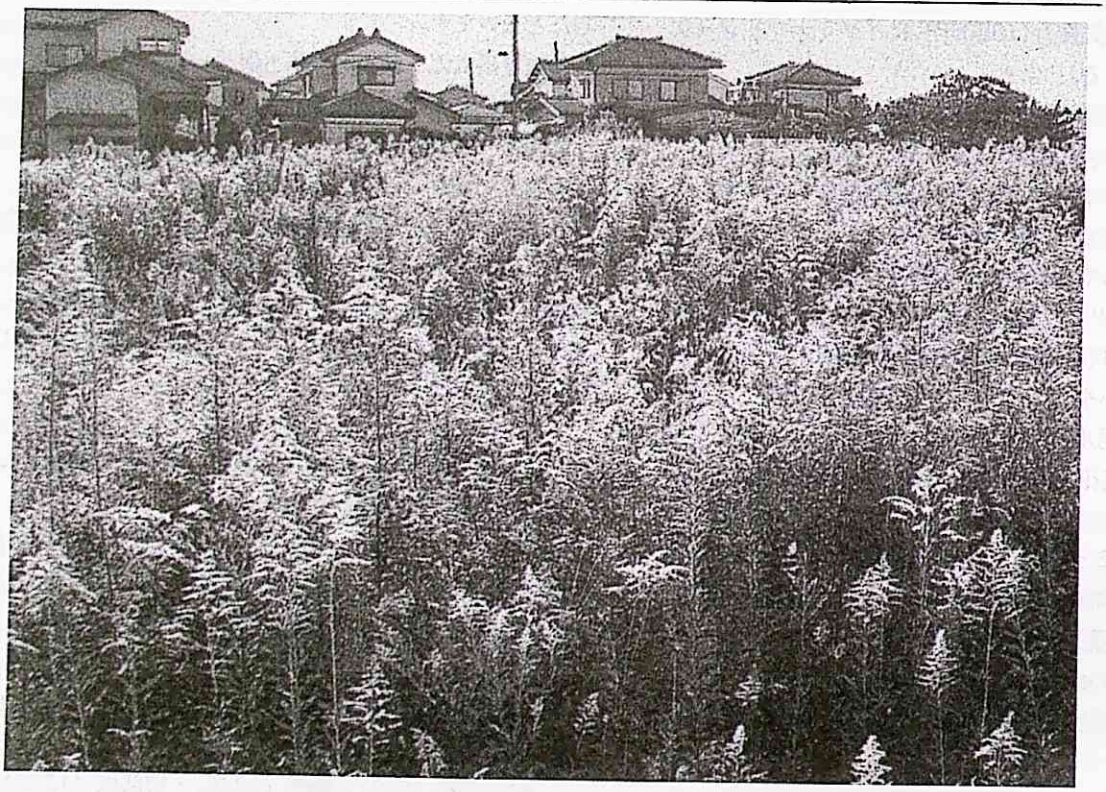
セイタカアワダチソウの新潟県内における拡がりは何時からか、新潟日報の片桐元記者からの突然の質問に当惑した。日本では1950年代に急に目立つようになったという（長田 1972）。新潟県では何時帰化し、繁茂したかはっきりしない。帰化植物それぞれについて、何時県内に入ってきて拡がったか詳細な記録が知りたい。ここではセイタカアワダチソウの断片的な記録を文献の上から拾い出してみた。

1963年：「佐渡の植物」（北見）のリストには、カナダアキノキリンソウの記録があるが、セイタカアワダチソウは掲載していない。

1968年：「越後の植物誌（1）」（野田）に本種の記録がない。

1976年：「角田山塊の植物目録」（池野・白崎）には、本種の記録はない。

新　潟　日　報 1999年(平成11年)10月21日（木曜日）



休耕田や造成地を覆い尽くすセイタカアワダチソウの花＝白根市高井興野

秋景色一変　波打つ黄色

セイタカアワダチソウ

県内で猛繁殖

北米原産の帰化植物、セイタカアワダチソウが県内で爆発的に増殖、河川敷や休耕田、造成地などで猛威をふるっている。十月、黄色い花の穂波が一面を埋め尽くし、紅葉期ののどかな風景を一変させる勢いだ。

資料などによると、一九五〇—六〇年代から国内で目立ち始めた。一時、花粉アレルギーの〝犯人〟と疑われたり、繁殖力の強さから悪草呼ばわりされたりしたこともあった。しかし、花粉は風に飛ばない虫媒花。キク科の多年草で、高さは二㍍を超えることもある。

石沢進・新潟大理学部教授（六四）によると、県内では七七—七八年にかけて加茂市、八一年に西蒲弥彦村、八九年に豊栄市の福島潟で、それぞれ見たという植物調査報告が寄せられている。根から発育抑制物質を出して他の植物を駆逐する。しかし、増えすぎると自滅への道を歩むという独特さを持つ。このため全国的には下火傾向というが、県内では山間部を除きほぼ全域に進出、今がピーク。

1978年：「新潟県青海町黒姫山の植物」（石沢）では、生育を確認していない。

1981年：「弥彦の植物」には弥彦村麓の生育地を報告している（伊藤）

1982年：佐渡の帰化植物の報告書（近藤 1982）では「国府川の川岸に急増しており、さらに広がると予想される。羽茂町（大橋）でも増えている。」と記録している。

1987年：「新潟県の海辺の植物」（酒井）には1985年10月13日に新潟・西海岸で撮影したセイタカアワダチソウの写真を掲載している。

1989年：「新潟県福島潟の植物」（笹川・石沢）では、調査した1988年に初めて福島潟での分布を記録している。しかし、1982年に出版された「福島潟の自然」（阿部）の報告は、1967－1977年にかけて調査しているが、その時点では福島潟での生育を記録していない。

1996年：高橋は、「加茂川河岸のセイタカアワダチソウは、1977－1978年の観察では1個所記録さているいるだけでだるが、1887－1988年には増えているのが見られ、その後の増え方は著しく、1988－1988年には増えているのが見られ、その後の増え方は著しく、現在は、最盛期に達しているものと思われる」として指摘している。

以上の報告から1970年代の新潟県における記録は稀であり、1980年代に目立ち始めたようであり、1990年代に報告されている植物相の記録には、大抵掲載され、現在では広域に見られるようになったと推察される。なお、上記の文献調査は手元にあるものを断片的に取り上げたものであり、さらに詳細な分布状況を知りたい。県内での広がりに関連した資料を寄せて頂ければ幸である。

引用文献

阿部　利夫編（1982）　福島潟の自然

池野　一男・白崎　　仁（1976）　角田山塊の植物目録

石沢　　進（1978）　新潟県青海町黒姫山の植物　新潟県西頸城郡青海町教育委員会

伊藤　　至（1981）　新潟県弥彦の植物 81頁

北見　秀夫（1963）　佐渡の植物　佐渡博物館研究報告第5集

近藤　治隆（1982）　新潟県生態研究会誌 No.2：48頁

長田　武正（1972）　帰化植物図鑑

笹川　通博・石沢　　進（1989）　新潟県福島潟の植物　新潟県豊栄市・福島潟環境保全対策推進協議会

野田　光蔵（1968）　越後の植物誌　新潟大学理学部生物学教室、植物分類形態学研究室

酒井　昭治（1987）　新潟県の海辺の植物　北都

高橋　　務（1996）　帰化植物雑感　セタカアワダチソウ　新潟県植物保護　第20号

写真左：セイタカアワダチソウ（草丈の高い左側の植物、右側は在来のアキノキリンソウ）
写真右：アキノキリンソウ（近年在来の個体が極めて少なくなってきている）
いずれも新潟市五十嵐新潟大学構内（1999　10　31）